

特別
対談

時
松

RYUKO
TOKIMATSU

隆
光

プロゴルファー・ジャパンゴルフツアー選手会長

profile

1993年9月7日生まれ。福岡県那珂川市出身。沖学園高校卒。身長168センチ、体重75キロ。ゴルフを始めた5歳から篠塚武久氏に師事。2012年プロ入り。ツアー通算3勝。本名は源藏で、プロ仲間からはゲンちゃんの愛称で親しまれている。筑紫ヶ丘GC所属。

FFG MONTHLY REPORT



YouTube



Instagram



時松 隆光

プロゴルファー



体の弱かった幼少期 ゴルフとの出会い

谷 正明 特別顧問(以下、谷) 今日時は時松プロにお会いするのを楽しみにしていました。実は時松プロの師匠であられる篠塚武久しのづかたけひささんと付き合いがあり、20年くらい前、ゴルフが上手い小学生がいるから一緒に回らないかと誘われたことがあるんです。日時まで決まっていたのですが、都合がつかなくなつてキャンセルしたら、それつきりになつてしまつて。今こうしてお会いできることに縁を感じています。今日はじっくり時松プロのお話を伺いたいと思います。まずは、ゴルフを始められたきっかけをお聞かせください。

時松 隆光プロ(以下、時松) 生後4ヶ月で心臓の壁に穴が開いている先天性心房中隔欠損症と診断され、4歳の時に手術をしました。手術してから心臓に負担がかかる激しい運動は禁止されましたが、5歳の時、シングルゴルフけんぞうだった父・謙藏に「健康の為に」練習場に連れていつてもらったのがゴルフを始めたきっかけです。

小学生の時は授業が終わつて父と一緒に打ちつ放しへ。中学生の時も、ゴルフ部がない学校でしたから夕方、父と一緒に練習場へいく毎日でした。

ゴルフの上手い父の背中を見ながら、「お父さんに追いつきたい」「もっと上手になりたい」という気持ちでやっていました。父にゴルフで勝てるようになったのは中学2、3年くらいで、中学3年には7割くらい勝つて、10回あれば7回勝つようになりました。

中学2年の時に九州アマチュア選手権競技で優勝し、初めて日本アマチュアゴルフ選手権に出場できました。その年は決勝には残れませんでした。その3年後に初めて32位に入りマッチングプレーまで進めました。

高校はゴルフ部のあるところか、普通高校に行くか悩みましたが、「もっと上手になりたい」一心で、ゴルフ部のある沖学園高校(福岡市博多区)に進学しました。朝練の後、授業を受けて夕方また練習のゴルフ漬けの毎日でした。

高校1年生の時から「全国高等学校ゴルフ選手権大会」の団体戦メンバーでしたが、下級生は僕だけで、あとは皆3年生。ゴルフバッグを

谷 正明

福岡銀行 特別顧問

4つくらい担いで移動したりしました。上下関係が厳しい高校時代があったからこそ、人への接し方やコミュニケーション能力が鍛えられたように思います。

高校卒業後、プロの道へ 先の見えない苦節時代

時松 高校卒業後は所属の筑紫ヶ丘ゴルフクラブで研修生をしながらQT(クオリファイイングトーナメント)・プロゴルフツアーにおいてツアー本戦へのシード権を持たないプロゴルフアーが、シード権を得るために参加する予選会のこと)を受けることにしました。

4～5年はチャレンジやレギュラーツアーに出たりしていましたが、鳴かず飛ばずの状態です。九州での試合があまりなく、関東関西の試合が中心なので、福岡からだて飛行機代やレンタカー、ホテル代がかかって大変でした。チャレンジツアーでは、プレー代を少しでも節約するために、練習ラウンドもしませんでした。パットとショットの練習だけしてコースメモを買うだけ。毎年同じコースで行われるツアーはネットで

スコアを見て、コース全体を把握して戦略を練りました。

練習しても結果が出ない日々が続き、25歳になってもこのままだったらどうしようという不安はありましたが、「ゴルフが好き」という気持ちと、両親が理解して支援してくれたので何とか頑張ることができました。



対談風景

2015年、生まれて初めてPGAのプロテストを受けて1位で合格。転機はチャレンジアーの「2016 ジャパンクリエイトチャレンジ in 福岡雷山」でのプロ初優勝でした。この試合に勝ったことで出場できるようになった「2016ダンロップ・スリクソン福島オープン」でもその勢いのままツアー初優勝を飾り、続く「ネスレインビテーション」日本プロゴルフマッチプレー選手権「レクサス杯」でも優勝。

わずか1カ月の間で3勝し、1億1,180万円もの賞金を手にすることになりました。とはいえ、額が額だけに実感がわかず、自分よりも親の方が「会社をつくらないといけない」って慌てていました。もともと物欲がなく、自分のお金の使い道は食事に行ったり飲みに行ったりするくらい。乗っている車はネスレの優勝の副賞でいただいたレクサスRXです。

プロでやっていく覚悟で 登録名を「時松隆光」に

谷時松プロの名は「隆光」ですが、皆からは「源ちゃん」と呼ばれていますね。

時松「隆光」はゴルフの登録名で、本名は「源蔵」^{げんぞう}です。18歳でQ.Tを受ける際、福岡のお寺で名前をみてもらい、勝負運のある名前に変更しました。改名しても勝てなかったので、本名に戻そうかと思っていた矢先、ツアーで優勝できるようになり、そのまま「隆光」を使い続けています。

皆には本名の方が馴染みあるみたいで「源ちゃん」って呼ばれます。今になってみれば、「隆光」と「源蔵」、名前を変えることで、オンオフを使い分けできるので良かったです。

時松プロの代名詞 テンフィンガーグリップ

谷時松プロといえば、野球のバットのように握るテンフィンガーグリップ（ベースボールグリップ）が代名詞ですが、最初からテンフィンガーだったのですか。

時松 初めて行った練習場がテンフィンガー推奨者の篠塚武久コーチ主宰の練習場で、自然な形でテンフィンガーグリップが身につきました。篠塚コーチは当時、九州地区トップアマで指導者としても有名で、父が憧れていたようです。



偶然、取材現場に居合わせた篠塚コーチ（右から2人目）

篠塚コーチは、体に無理がない、ケガが少なく、シンプルなスイングとしてテンフィンガーグリップを推奨されています。ゴルフをやっていると左手の親指を負傷する人がプロアマ問わず多いですが、僕は今まで大きなケガもなくきているので、これも全てテンフィンガーグリップのおかげかなと思います。





平常心でパーを 積み重ねるスタイル

谷 時松プロのプレースタイルをお聞かせください。

時松 確かな方向性と正確なパットを大切にしています。スコアでいったらバーディーの連続ではなく、パーを積み重ねてチャンスホールでバーディーを狙います。それからプレー中は喜怒哀楽を顔や態度に出さないのが僕のスタイル。平常心を大事にしています。

最近ではアメリカのデシャンボー選手の影響で、体を大きくして飛距離を伸ばそうとトレーニングに励んでいます。腹筋や背筋を鍛えたりランニング、肉を食べたりしていますが、なかなか思うように飛距離は伸びません。

アマチュアゴルファー

基礎があつてこその上達

谷 アマチュアゴルファーに向けて、練習が上手くなる方法は。

時松 練習場に行ってドライバーを打つのは

気持ちいいですが、本気で上手くなりたいならウェッジで30〜50ヤードを徹底的にやることです。その延長がドライバーのフルショットにつながります。地味でつまらないかもしれませんが、基礎が大事です。

ジャパンゴルフツアーの 選手会長に就任

谷 昨年からジャパンゴルフツアーの選手会長（任期2年）に就任されましたが、こういった経緯でなられたのですか。

時松 1月の理事会で選手会長を決めるのですが、昨年は立候補者がいなくて。前会長の（石川）遼さんが「若い世代に引き継ぎ経験をさせた方がよい」という流れになり、白羽の矢が当たりました。辞退することも考えましたが、会長経験のある遼さんや（池田）勇太さん、小鯛（竜也）さんを加えた3人が副会長になり、「オレたち3人を中心に全力でフォローしていくから」と背中を押される形で選手会長になりました。

ちょうど就任した頃から新型コロナウイルスが流行し始め、福岡に住んでいる僕は緊急



事態宣言下で東京に行くこともできず、電話会議ばかりしていました。

昨年は、新型コロナウイルスの影響で大会の中止が相次ぎ、例年25試合あるうち開催することができたのはわずか6試合でした。

例年はほぼ県外でホテル生活を送っていて、九州ツアーのときに福岡の実家に少し顔を出して再びツアーに出るといった生活でしたが、昨年は珍しく実家にいる時間が長かったです。

今年はなんとか予定通りにツアーを進めています。新しい動きとして、スポンサーが代わっても大会を継続できる仕組みを目指そうと、5月に国内男子ツアー「ジャパンプレイヤーズチャンピオンシップ」を選手会主催で初開催しました。この大会は、今後も継続していきたいです。

選手会長になってから、いろいろな仕組みがわかってきて、一つの大会を開催するにあたり、何百人何千人の人たちに支えられて、プロゴルファーは活躍できるんだと実感しました。応援してくださる方々には感謝の気持ちしかありません。

これからも選手会長として、男子プロゴルフを精一杯盛り上げていきますので、応援よろ

しくお願い申し上げます。

コロナ禍での今季 選手としての目標は「優勝」

谷 選手会長としてお忙しい日々を過ごしていらっしゃると思いますが、一人のプロゴルフプレーヤーとしての目標をお聞かせください。

時松 選手としては試合をやっていただけのこと、試合に参戦できることが何よりありがたいです。プレーを通して、皆さんに少しでも元気が届けられるように、一打一打全力でやって、優勝争いができたら最高です。

谷 本日はありがとうございました。今後のさらなる飛躍を期待しております。



撮影協力

筑紫ヶ丘ゴルフクラブ

■住所：
福岡県那珂川市
後野571

■電話：
092-952-6011



ミズノは時松隆光プロを 応援しています。

2016年以来、ミズノアイアンを使用の時松隆光プロ。

2017年に手嶋多一プロとマッチプレーで対戦、

その時に手嶋プロからの奨めもあり、ミズノドライバーの使用も始まりました。

その後、ミズノのドライバーとアイアンでツアー2勝をマーク。

ミズノとは2019年にクラブ使用契約、2020年2月には総合契約締結に至りました。

2020年にはジャパングolfツアー選手会の会長に就任し、

重責を担いながらも、信頼を寄せてくれているミズノのギアを武器に、

安定して好成績を積み重ねています。

何事にも真摯に取り組み、多くの人から好かれる

時松プロを、ミズノはこれからもサポートしていきます。



